

ようこそ PRRS フォーラムへ

キーコンセプト

日本の養豚産業において、重要な疾病への対策技術確立・ネットワーク構築により、健康（安心、安全）な豚の生産に寄与し、持続可能な産業として次世代への基盤をつくる。

日時：2025 年 9 月 16 日（火曜日）
10：00 ～ 18：20

神奈川会場：麻布大学

宮崎会場：宮崎大学 木花キャンパス

（および Web 配信）



一般社団法人日本養豚開業獣医師協会後援

第3回 PRRS フォーラム本大会プログラム

メインテーマ「生産者視点から見た PRRS 対策」

日時 2025 年 9 月 16 日 (火) 10 : 00 ~ 18 : 20 (受付開始 9:00)

形式 対面およびオンラインのハイブリッド開催

会場 【神奈川会場】 麻布大学・9 号館

〒 252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71

【宮 崎 会 場】 宮崎大学 木花キャンパス・330 記念交流会館

〒 889-2155 宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1

プログラム (総合司会：稲吉幹事)

開会挨拶：呉会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10:00 ~ 10:05

第一部 第2回 PRRS フォーラム本大会からの学び：呉会長・・・・・・・・・・・・ 10:05 ~ 10:30

第二部 新しい PRRS 対策の提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10:30 ~ 12:00

○生産者セミナー「PRRS コントロールの "5STEP" ~最新知見に基づく体系的なアプローチ~」

▶講演者：上田 俊樹 氏 (ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルス株式会社)

○質疑・協議

▶ファシリテーター：高木副会長 (神奈川会場)、岡林幹事 (宮崎会場)

▶テーブルメンバー：生産者コメンテーター

~休憩 90 分~

第三部 事前アンケートを受けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13:30 ~ 15:00

○内容と回答の共有

▶発表者：PRRS フォーラム幹事会メンバーほか

○質疑・協議

▶ファシリテーター：小澤幹事 (神奈川会場)、岡林幹事 (宮崎会場)

▶テーブルメンバー：生産者コメンテーター

~休憩 15 分~

第四部 全体セッション：生産者視点から見た PRRS 対策・・・・・・・・・・・・ 15:15 ~ 17:15

○総合討論

▶ファシリテーター：大竹幹事 (神奈川会場)、岡林幹事 (宮崎会場)

▶テーブルメンバー：生産者コメンテーター

~休憩 15 分~

第五部 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17:30 ~ 18:15

閉会挨拶：高木副会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18:15 ~ 18:20

懇親会

神奈川会場のみ (麻布大学キャンパス内『テラス いちよう』)



ホームページ : <https://prrs-forum.jp/>

メールアドレス : swine@prrs-forum.jp

事前アンケートまとめ

▼ 地域防疫

【関連企業】

地域防疫に関連企業（メーカーやディーラー）が関わって生産者の皆様のお力になる為に出来ることは何がありますか？行政が必ず関わる必要性があることから事務局は家畜保健衛生所様がやるべきだと考えています。それ以外の役割として出来ることがあればひ力になりたいと考えておりますがなかなか明確な答えが出ません。ご助言いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

▼ PRRS 耐性ゲノム編集豚

【関連企業】

ゲノム編集による抗 PRRS 育種の現状、編集豚の安全性について。

▼ ウイルスの病原性

【関連企業】

PRRSV 感染が感染豚の「免疫機能」と、「流行時期と同じタイミングで接種される各ワクチンの効果」に与える影響について、整理して共有してほしい。

▼ ワクチン接種以外の対策

【関連企業】

飼料安全法上は飼料による PRRS 対策はうたにくいため、養豚業界全体でニーズを持ち上げて欲しいです。

【臨床獣医師】

①繁殖豚での発症が繰り返される農場では、外部バイオセキュリティを強化すると、繁殖安定（ステージⅢ）となり、維持できることを複数経験しています。一方、バイオセキュリティレベルの高い陰性農場において、肥育舎から侵入するケースがいくつかみられ、侵入経路が分からない、もしくは、地域内の空気伝搬ではないかと感じることも多いです。バイオセキュリティは農場全体で対策が行われますが、発症ステージに対して、どのバイオセキュリティ対策が有効かという知見が足りないように感じています。②外部バイオセキュリティを強化し、繁殖安定の状態であっても、繁殖豚に対する生ワクチン接種は、一斉接種という形で続けられます。多くの PRRS 陽性農場がこの状態だと思います。不活化ワクチンや EU 株の生ワクチンが上場されたことで、新たな知見が見つかっていれば、知りたいです。③繁殖安定の状態になれば、繁殖豚以外の子豚、肥育豚での PRRS としての発症はほとんどみられなくなる農場が多いですが、発症する農場は、必ずと言っていいほど、初乳摂取不足、母豚の栄養状態、離乳や移動に伴う豚にとっての変化が同時に複数重なっていたり、畜舎の環境設定・給餌管理が不十分だったり、豚が健康に育つために必要なピースが欠けています。そのような農場で、薬剤等の議論をしても再現性に乏しいため、ワクチンや消毒以外の対策について、議論が進んでいけばよいと感じます。地域防疫に関連企業（メーカーやディーラー）が関わって生産者の皆様のお力になる為に出来ることは何がありますか？行政が必ず関わる必要性があることから事務局は家畜保健衛生所様がやるべきだと考えています。それ以外の役割として出来ることがあればひ力になりたいと考えておりますがなかなか明確な答えが出ません。ご助言いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

▼ ワクチンの性質

【臨床獣医師】

養豚密集地帯において、PRRS 生ワクチンを接種していない農場であるにも関わらず、生ワクチン株と非常に近い株が検出される事例を聞いたことが複数あります。生ワクチンウイルスは、野外感染を起こすと捉えていいのでしょうか？また、もし同様のケースがあったとして、その農場は PRRS による被害はあったのでしょうか？宜しくお願いいたします。



【関連企業】

豚熱ワクチン接種における感染性への影響、および PRRS ワクチン併用による影響。

【関連企業】

近年問題視されている PRRS クラスター IV 株に対し、現行 PRRS ワクチンの追加接種や衛生レベルの向上といった対策が講じられているものの、期待通りの効果が得られていない状況です。このような状況下で、一部ではクラスター I・II のワクチンを交互に接種する、あるいは L-K 法（生ワクチンと不活化ワクチンの併用）によって抗体価を高め、感染防御につなげるという考え方も聞きます。しかし、これらの手法が実際に高い効果を期待できるのか疑問があります。PRRS の防御には液性免疫だけでなく細胞性免疫の重要性が指摘されることが多い中、上記の提案は液性免疫に主眼を置いたものであり、一見すると逆行しているようにも感じられます。さらに、新たな野外株が侵入した際に、その発見が遅れる可能性も懸念されます。PRRS において交差免疫が存在すると言われている中で、単一のワクチンを定期接種または追加接種でコントロールすることが難しいのはなぜでしょうか。また、上記のような複数のワクチンを組み合わせる手法が提唱されるに至った背景や、その科学的根拠について、専門家の先生方のご知見を伺いたく存じます。合わせて、PRRS-K ワクチンの適切な使用方法についてもご教授いただけますと幸いです。

【臨床獣医師】

不活化ワクチンと生ワクチンの併用について、技術的なエビデンスを積み上げる必要があると思います。

▼ ワクチンの使い方

【行政機関】

PRRS ワクチネーションプログラムの方法、考え方の詳細を教えてください。

【生産者】

PRRS の陽性農場ですが今のところ、不活化ワクチンを使用して年中通してピンクになっており、うまく付き合えてます。もし、違う株が入った場合は生ワクチンを使用するなどどのように対応すればいいのでしょうか？

【臨床獣医師】

① PRRS ワクチンの効果的な使い方を知りたい（生、不活化の違い、母豚と子豚の接種法、type1 ワクチンの使い方等）。② 種豚群の免疫状態をそ早期に安定化させる方法を知りたい。

【行政機関】

PRRS ワクチンのコントロール成功と飼育密度、ダウンタイムとの関連について実際の知見はないか？

▼ PRRS 検査の詳細

【関連企業】

・ ELISA 検査の活用方法

PRRS 陰性化に向けた検査としては非常に有用だと思いますが、陽性農場での母豚の産歴ごとの検査や子豚の検査は必要なのか？ AASV の検査ガイドラインを読んでいると陰性化に移行するまでは基本的に睾丸検査等のプール検体を用いているが血清よりもこちらを使う方がよいのか？

・ 検体のプール数

血清検査についてはプール数の上限について納得感があるが、睾丸検査についてはプール数をどのくらいに設定するのがよいのか？論文と検査機関での推奨に少し乖離があるように見える。

・ Ct 値の活用

海外のデータだと Ct 値が使われるが日本ではどのように使えるのか？



ブース出展ご賛同会社様

中部エコテック株式会社

DSM 株式会社

ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社

株式会社アスコ

ゾエティス・ジャパン株式会社

日生研株式会社

ご賛同頂きまして有難うございました。

我々も皆様のご協力のもとに皆様とともに養豚業界の維持発展に繋げてまいります。
引き続き宜しくお願い致します。



第3期 産業パートナー様

共立製薬株式会社
日本養豚事業協同組合
ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社
あすかアニマルヘルス株式会社
ヨシモトアグリ株式会社
日本全薬工業株式会社
中部エコテック株式会社
DSM 株式会社
森久保薬品株式会社
一般社団法人日本養豚協会
MSD アニマルヘルス株式会社
ゾエティス・ジャパン株式会社
イワタニ・ケンボロー株式会社
株式会社エコアニマルヘルスジャパン
日生研株式会社
株式会社食環境衛生研究所

～ 2025 年 9 月 9 日 時点



アンケート

以下の URL より、
アンケートへのご回答をお願い申し上げます。



■アンケート回答 URL

<https://prrs-forum.jp/prrsfform/anq2025.php>

お忙しい中お手数をおかけしますが、
皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

